【公益社団法人御坊納税協会　優秀賞】

「税について　思うこと」

日高高等学校
附属中学校1年
寺井　巴菜
（敬称略）

二〇一九年十月一日から消費税率が現在の八％から十％に引き上げられる。中学生である私が「税」と聞いて一番に思い浮かんだのは消費税だ。増税なんて嫌だ。大抵の人がそう思う。私も正直、買い物に行く時、多めに支払わなければならないと思うと、お小遣いが減るので少し損をするような気がする。でも消費税の引き上げと共に軽減税率制度が実施される。軽減税率制度とは、食料品や飲み物や定期購読契約が締結された週二回以上発行される新聞などは、消費税が八％のままである。その中でも、外食や酒類は十％になるので支払う際は気を付けなければならない。レシートの表示についても、複数税率になることにより、八％対象のもの十％対象のもので分けられる。十月一日からは消費者である私達は制度が変わる事を知っておく必要がある。

私は小学六年生の時、税務署の方から、税金についての授業を受けた。それまでは「税金」という言葉は聞いたことはあるけれど、どのように使われているのか知らなかった。私が、今、当たり前に生活し、何気なく過ごしてきた事こそが、税のおかげだと知ったのだった。毎年、小・中学校では進級する時、新しい教科書が無料で全ての子供に配布される。授業料もいらない。もし、税がなかったら、授業料や教科書の購入が高く、平等に教育が受けられないかもしれない。そう思うと、毎日学校に通えることに感謝し、教科書を大切にしたいと思った。それから、通学路や出掛けた際に必ず通る道路も、国や市町村などが管理してくれている。どこに行くにも整備され、とても綺麗だ。行く先で信号が設置されている事で、交通ルールが守られ、事故が起きにくくなっている。万が一、交通事故が起きた際も、警察官、救急車がすぐに助けに来てくれる。私達の安全が守られているのだ。私の町では子供医療費制度があり、町内に住む0歳から十八歳の子供は医療費の一部を助成してくれる。私はアレルギー体質で、目が痒くなったり、鼻の調子が悪くなるので、よく受診する。その時、受付で「お会計はありません」と言われたことを思い出した。何回も受診できるのは、税のおかげなのだと改めて感謝できた。

日本は「税」で守られている。最近は、災害がとても多いように感じる。頻繁に起こる地震による災害、台風による被害も大きい。昨年の西日本豪雨から一年経った今も屋根にブルーシートが被っているのを見かける。税はいざという時、災害救助の為に使われる。自然災害は予測できない。だからこそ、税が役に立つ。消費税が十％に引き上げられた際も、私は税に守られている事に感謝し、商品の支払いをしたいと思う。

今年の五月から「令和時代」に改元された。私達が新しい時代を築いていく。納税を通じて少しでも社会の発展に貢献したいと思う。

【和歌山県知事賞】
（敬称略）

「私たちの町をよりよくする税金」

日高中学校1年
嶋田　倫也

今年の夏は特に暑い夏でした。学校では人が多くあつまるので教室はとても暑くなります。クーラーがなくては生活できません。

父や母の中学生の時は学校にクーラーがついていなかったそうです。母は「昔は今ほども暑くなかった」と言います。それでも、夏休みの前後は暑くて授業に集中できなかったと言っていました。しかし、今は学校のどの部屋にもクーラーがあります。全教室にクーラーを設置するには大変な費用がかかるはずです。その費用は税金から出されています。クーラー以外にも、いろいろな学校の設備や図書の本なども税金でまかなわれています。私たちの町の税金は私たち町民が楽しく生活して喜びを感じられるように使われるべきだと思います。教室にクーラーがあるおかげで暑いときでも私たちは学校で快適に楽しく生活できています。

僕の住んでいる日高町では田畑で農作物がつくりにくくなってきています。なぜなら、鳥獣被害が増えてきているからです。よく猿のくじょに鉄砲をうつ人がきますが猿の数は減りません。せっかく育てた農作物を簡単に食べられるのはくやしいです。そこで、町の税金をつかって鳥獣くじょに力を入れてもらいたいと思いました。今、農業をする人が減っています。いろいろな原因があると思いますが、鳥獣の被害で作物が作りにくくなっていることも原因の一つだと思います。農家の人は皆困っています。父は稲が実りだす時期から収穫まで、鹿や猪・猿などに田んぼを荒らされないか心配しています。猪や鹿が入って食い荒らすので田んぼのまわりに網をはったりしています。しかし、網をはるだけでは、猿にはききません。まわりの田んぼを作っている人も同じように対策していますが、年々被害はひどくなっています。手間がかかるのに被害が防げず、放棄されて荒れた田畑もふえています。また、このごろ増えすぎた猿は凶暴になっています。昼間道路へ出てきたり、人がいても平気で姿をあらわします。おいはらいに行ってもにげなくなりました。人をおそうかもしれないと思うと、とても怖いです。僕の家は山の下なので人がいない時は家の前まできます。僕の弟はまだ保育園児なので、おそわれると一人ではにげられないので考えると本当に怖いです。

限られた税金をどのようなことに使うのかいろいろ考えて予算を立てていると思いますが、僕は、鳥獣被害の対策にも使って、住みやすい町・住んでいる人が喜んで働き生活できる町にしてほしいです。

税金を私たち、住んでいる者のために良く使ってくれるなら、僕は将来きちんと税金を納めたいです。

この作文は、御坊税務署、公益社団法人御坊納税協会および日高納税貯蓄組合連合会共催による令和元年度中学生の「税についての作文」において、応募総数１８１０点の中から入賞された作文です。